

令和4年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

春日井市立丸田小学校

1. 本校の教育目標

- 健康で、温かい心の子どもを育成する。
- 自ら学び、考え、行動する子どもを育成する。
- きまりを守り、責任を果たす子どもを育成する。
- 学校を愛し、郷土を愛する子どもを育成する。
- 友達とのかかわりを大切にする、心豊かな子どもを育成する。

校 訓

正しく 心ゆたかで たくましい 丸田の子

2. 特別の教育課程の内容

（1）特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

（2）特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

（3）実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、特別支援学級

（4）地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写

の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児童	・筆の使い方がよく分かった。 ・書道科の講師の先生が、優しく教えてくれたり、一緒に書いてくれたりしてきれいに書けるようになった。 ・どこに注意して書くとよいか分かりやすい。 ・お手本を書いてもらえるので、名前を書く位置までわかってよかった。
教員	・低学年から水習字をしているので、3年生で墨を使うときでも抵抗なく学習に取り組んでいる。 ・複数で個別指導ができ、よりきめ細かい指導ができています。 ・書道科講師の専門的な助言により、子どもたちの技能が確実に向上している。
保護者	・専門の先生から教わる機会があるのはよい。 ・毛筆が苦手な子どもにとって、複数で指導してもらえるのはありがたい。 ・褒めてもらうことが増えて、とても嬉しかったと子どもが言っていた。

(3) 学校関係者評価

・書のまち春日井市として、低学年から毛筆を扱う機会があるのは素晴らしい。 ・児童が書きたい言葉を習字で書く機会があり、児童の意欲は高まっている。 ・書道科講師に実技指導していただけるのはありがたい。どのポイントに気をつけるとまとまった文字が書けるのか分かりやすく指導をしてくださり、児童の上達もはやい。 ・色紙に児童が書きたい文字を毛筆で書いたり、落款をつくって自分の作品に押したりするなど、日本文化に対する理解を深める機会にもなっている。
